

目指す学校像		重点項目 (学校組織目標)		重点目標		達成状況	
○ 就労を目指し、自己実現のできる学校 ○ 挑戦し続け、成長の喜びと感動のある学校 ○ 地域や企業と共に、よりよい社会創りに貢献できる学校 <R2 スローガン> 『 自立 挑戦 貢献 笑顔でいこう！ 超えていこう！ 』 KOUTOKUスタンダード 『 Keep on Smiling 』 & 『 Be a role Model 』 & 『 Only one in Japan 』 (笑顔でいこう) (お手本になろう) (日本でただひとつ)		1 将来の社会生活・職業生活を見据えた体系的な教育の推進を図る。【自立】		① 卒業後の視点を踏まえたカリキュラムマネジメント ・専門教科における3つの視点(基礎的・基本的な力の習得、主体的に働く力の育成、適切な目標設定と評価)の実践・検証・ICT教育の推進と環境整備 ② 新学習指導要領を踏まえた授業づくりの推進 ・思考力・判断力・表現力の向上に重点を置いた授業づくりと学びの連続性を意識した指導計画の改善 ・NIEの実践 ③ 寄宿舎における自己管理能力の向上 ・マイタイムや自治会活動をととした主体的自己管理能力の育成		A	
・学校行事を通して自己肯定感や自己有用感の育成を図れる行事を行ってきたが、生徒の主体的な活動についてや生徒の負担感等、行事のあり方について行事検討委員会において検討を行った。生徒主体で持続可能な行事となるようスリム化に向けて検討していく必要がある。 ・学校見学やコース体験を文書やホームページ等で案内し、小学校へも本校の理解啓発を積極的に進めてきたが、志願者数確保に向けさらに工夫が必要である。 ・企業との連携により98%の就労率を達成することができた。今後も生徒一人一人の進路希望により、将来的な社会自立及び職業自立を目指した進路指導に努めていく必要がある。		2 社会に開かれた魅力ある教育の推進と本校教育の理解啓発を図る。【挑戦】		④ 生徒主体の持続可能な学校行事への挑戦 ・行事のスリム化への見直し・改善 ⑤ 本校教育の理解啓発と本校志願者数の向上 ・小学校、中学校との連携強化 ・魅力あるリーフレットやホームページの作成・活用 ⑥ 企業との連携強化による進路指導の充実 ・生徒一人一人の職業的自己実現の達成(就労100%)		B	
・常設駅や学校周辺の清掃活動を地域の方々や実施している。地域に貢献する機会を設けることで、生徒は地域について理解し、地域の方々には学校への理解を深めることができた。さらに今後は、身に付けた力で主体的に社会貢献しようとする気持ちを育てる必要がある。 ・生徒の自己課題を見つけてやすくするために、キャリアサポートでの振り返りを実施し、キャリア形成を図るとともにスポーツ・文化芸術活動を継続し、地域社会に貢献できる人材育成を図る必要がある。		3 豊かな人間性と貢献する心を育て、よりよい社会の創り手を育てる教育の推進を図る。【貢献】		⑦ ボランティア活動等の推進 ・専門教科における主体的貢献活動 ・心のバリアフリーにつながる交流活動の実施 ⑧ キャリア形成の促進 ・キャリアサポートの活用 ・社会の創り手を育成するための教育推進会議の実施 ⑨ スポーツ・文化芸術活動の促進 ・地域社会との連携による多様な体験活動の実施		B	
・定時退勤日を実施するなど、働き方の改善を各自が意識し、残業時間も平均では減ってきているが、個人差があり更なる働き方の改善が必要である。 ・市町村防災担当や自主防災組織と連携し、災害に応じたタイムラインを作成した。地域と連携し避難所開設時の訓練を必要とする。 ・危機管理マニュアルや組織活動の見直し、充実を図るとともに生徒が主体的に危険を予測し回避できるよう安全教育の充実を図る必要がある。 ・生徒の実態を多面的にとらえ、日々観察しながら生徒の悩みの早期発見や適切な支援に努めるとともに、外部との連携が必要な生徒は、支援体制を整え、関係者と連携し支援をしていく必要がある。		4 安全・安心・元気で活力ある学校づくりの推進を図る。		⑩ 教職員の働き方改革の推進とチーム力向上 ・5つ以上の業務改革 ・チームビルディング研修の定期実施 ⑪ 学校安全の充実 ・新型コロナウイルス感染症防止 ・避難所開設訓練及び危機管理マニュアルシミュレーションの実施 ・施設設備の老朽化に対する保全 ⑫ 一人一人に応じた生徒指導と健康管理 ・自己コントロール意識の育成と主体的健康管理能力の向上		A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度への改善策		
総務部門	グランドデザインの実現に向け、各部門、学年と連携を図りながら、効率的な学校運営に努める。	グランドデザインマネジメントシートの活用 経営企画会での検討と実施、部門間、学年間との連携、早期立案のための業務進行管理及び改善シートを活用した見直し改善	①～⑫	B	新型コロナウイルス感染症対策を継続しながら生徒の主体的な活動を保障した行事の改善・見直しを図る。 チーム力向上の研修と働き方改革の取り組みの見直し改善を図る。		
教務部	基本研修や職研修、衛生委員会による研修等を活用し、チーム力の向上を図るとともに、コンプライアンスの推進に努める。	授業研を活用した授業力の向上、人権研修や出張報告会、若手教員によるコンプライアンス及びチーム力向上のボトムアップ研修、衛生委員会によるチームビルディング研修の実施	⑩	B			
	卒業後の視点を踏まえたカリキュラムマネジメントに努める。	専門教科における3つの視点(基礎的・基本的な力の習得、主体的に働く力の育成、適切な目標設定と評価)の実践・検証	①⑥	A			
	受検者数の確保に向け、学校の情報発信の充実を努める。	本校の魅力伝えるためのリーフレットの配付や学校紹介イメージビデオをホームページに掲載するとともに必要に応じ中学校訪問して学校説明するなど情報発信について工夫する。 小学校段階での学校見学の実施、本校受験に関する情報をホームページを活用して発信する。	⑤	A			
総合支援部	生徒一人一人の実態を把握し、学年や関係機関と連携を図りながら、校内支援の推進に努める。	トーキングタイム、ランチタイム相談を計画的に実施し生徒理解に努める。 校内支援会議、関係機関との支援会議、学校医との支援会議等を実施する。 標準検査を実施し生徒の実態を客観的に把握し支援計画に生かしていけるように情報共有をする。	⑫	B	避難所開設訓練の充実と防災マニュアルに基づく訓練や倉庫内の整理及び点検を通年で実施していく。		
	特別支援教育のセンター的機能の促進と充実を努める。	学校見学についてホームページや文書で案内をしたり、中学生と対象としたコース体験の実施をする。 巡回相談の充実、ニーズに応じた支援への対応に努める。	⑤	B			
	心のバリアフリーにつながる交流及び共同学習を工夫する。	事前に担当者との打ち合わせを実施し、活動内容・方法について十分に共通理解を図る。 ホームページ等を利用して活動の情報発信に努める。	④⑦	B			
	特別支援教育に対する理解啓発に努める。	校外でのマルシェや地域の方々との交流の充実を図る。 ホームページ等を利用して活動の情報発信に努める。	⑤⑦	B			
危機管理部	防災教育の推進に努める。 地域と連携し、避難所開設が円滑にできるようにする。	地域と連携した避難所開設運営訓練及び防災連絡会議を実施する。 マニュアルに基づいた避難訓練を実施し、マニュアル及び防災対策組織の見直しをする。	⑪	A			
	防災管理の徹底及び組織活動の充実を努める。	防災倉庫内の整理整頓及び備蓄品の点検をする。 毎月安全点検を実施する。 危機管理マニュアルのシミュレーションを実施する。	⑪	B			
情報メディア部	校務や授業でICTを円滑に活用できるように、ICT環境の整備を図る。	校務の情報化や授業でのICT活用を推進するための校内環境の整備(計画的な購入、メンテナンス)を実施する。	⑩	A	iPadが導入され、活用事例が増えているが、授業で有効に活用するためにAppleTVのような周辺機器やアプリの整備等が必要。ホームページの閲覧数は増加しているが、ブログや部活動のページ等、さらに定期的な更新が必要。体校等に備えて、オンライン授業や会議の研修を継続的とする。		
	ホームページの充実を図り、閲覧者の需要に応じた情報発信に努める。	ブログによる学校行事等の最新情報の発信、各分掌部の協力による情報提供を実施する。 生徒に向けた情報発信のページの作成、運用を行う。	⑤	A			
	教職員、生徒のICT機器の活用向上を図り、学校生活や家庭生活の中で活用する力を育てる。	教員が授業や休校時の対応にICTを活用できるようにするための校内研修を実施する。 生徒が実態に応じて、情報関係各種検定を取得することができるよう支援する。 生徒全員にbアカウントを配付し、教育情報ネットワークを活用できるように支援する。	②⑪ ①②⑫	B A			
	教職員、生徒の情報モラル、情報セキュリティの意識を高める。	生徒・教員の情報モラル・セキュリティに対する意識向上のための研修を実施する。 一人一台PCの実現やファイルストリームの使用等、外部記憶媒体を使わない勤務を実現する。	①②	B			
教育指導部門 学習・研究部	新学習指導要領を踏まえた授業づくりを推進する。	学校課題研究及び計画訪問等と関連させて実施 専門家による教職員向けの研修会(情報交換を含む)の開催 ルーブリック評価を用いて目標と評価の一体化 学びの連続性を意識した年間指導計画の見直し、改善	②	A	変則的な日程となった1年ではあったが、目標達成のために取り組み、概ね達成することができた。コロナ禍において、課題と成果の両面とが挙げられた。ICTを活用した教育支援が進んだ一方で、外部への働きかけや生徒主体の計画の立案や実践については、今後の課題である。		
	NIEを活用した教育活動の実践を推進する。 思考力、判断力、表現力の育成を図る。	NIEを活用した授業の実施、SHRを使った学習、学校や寄宿舎でのNIEコーナーの設置、NIEだよりの発行 新聞コンクールへの参加	②	A			
	専門教科について、3つの視点(基礎的・基本的な力の習得、主体的に働く力の育成、適切な目標設定と評価)に基づいた指導の実践・検証をする。	社会情勢に沿った学習内容および作業内容の検討・実施(生徒によるデータ管理など) 生徒との対話を重視し、具体的な目標づくりや自己理解を深めるための振り返りの実施 主体性を育むための役割分担および場面設定 生徒主体の発案による社会貢献活動の計画・実施	①②⑤⑦	A			
	ICT(WE B)を活用した生徒主体による授業実践の推進を図る。	ICTの機器の活用についての情報共有(職員向けICT研修の実施、WE Bを活用した課題や授業の検討など)、ICTを推進するための機器の校内環境の整備	①②⑤	A			
	働き続けるための体力の向上及び地域社会との連携による部活動の充実を図る。	保健体育科の授業の充実、部活動における検討と見直しのための顧問会議を実施 自己実現できる芸術文化活動(高文連等)や外部の大会等への参加	②⑨	B			

就労指導部	将来的な職業的自己実現に向け、本人が主体的に自分自身の進路を自己選択、自己決定していくための企業との連携強化による進路指導及び支援の充実を図る。	事業所による現場実習等のよりよい進路選択、決定を目指した体験的な学習活動の充実を図る。	⑥⑧	A	B	コロナ禍による影響を踏まえ、対面以外での職場開拓や事業所との連携の在り方（WEBの活用等）を構築していく必要がある。
		生徒の希望や特性に基づく就労及び現場実習先の選定と新規開拓に努める。	⑥	A		
		「進路の手引き（本校作成物）」を活用した就労（障害者雇用や職業生活など）に関する情報提供に取り組む。	⑥⑧	B		
	学習・研究部（特別活動係）との連携による生徒一人一人のキャリア形成支援の充実を図る。（キャリア・パスポートの活用）	⑥⑧	B			
関係機関との連携を図り、卒業生支援の充実を図る。	関係機関（生活支援センター等）との情報共有による卒業生の状況把握及び職場定着の促進する。	⑥⑧	B	B	職場定着に向け、期限（卒業後3年間）に関わらず、事業所からの相談に応じて、柔軟に対応していく。	
	卒業生の「働き続ける」を支援するための就労先との更なる連携強化を図る。（必要に応じた移行支援会議の実施）	⑥⑧	A			
保健指導部	学校医等との連携を図り、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図る。	学校医等と連携を密にし、感染症予防対策の徹底に努める。	⑪	A	A	新型コロナウイルス感染症予防対策については、おおむね達成できたが、健康観察カードの記入漏れが目立つ生徒もおり、主体的な感染予防に向けた指導の工夫が必要である。校内救急体制のシミュレーションを実施できなかったため、次年度は感染状況も踏まえて実施する。「休日に朝食を食べている」割合が、78.3%（6月）→85.2%（12月）に増加した。さらに100%に近づけるため、個に応じた食育指導の工夫が必要である。
		毎日の健康観察を強化し、個に応じた保健教育を実施する。	⑪⑫	A		
		給食の配膳（衛生面）及び摂食時の指導を徹底し、感染予防に努める。	⑪⑫	A		
		定期的な消毒を実施し、感染予防に努める。	⑪	A		
	生徒の実態を把握し、生徒に応じた主体的健康管理能力の向上に努める。	学校ホームページを活用し、健康に関する情報発信を行う。	⑤⑫	A		
		「食に関する調査」を行い結果を分析し、個に応じた食育指導を工夫する。	⑫	B		
	学校安全の充実に努める。	自己の健康目標の設定、自己評価を実施し、主体的健康管理能力の向上を図る。	⑫	B		
		校内救急体制のシミュレーションを実施し、教員の危機管理意識の向上に努める。	⑪	C		
		感染症対策や衛生管理を徹底し、安心・安全な給食の提供に努める。	⑪	A		
		掃除用具の管理や生徒・職員による清掃、教室の温湿度管理等を行い、学校安全の充実に努める。	⑪	B		
生徒指導部	予防的な生徒指導実践のための、早期段階での情報収集および生徒自身による気持ちの自己コントロール意識の育成を図る。	ミーティングを利用した早期段階での情報収集	⑫	B	B	ハートバランスシートの作成が完了した。今後活用方法について検討していく必要がある（バランスの解釈や生徒の使い方など）。
		生徒自身による気持ちの自己コントロール意識の育成をねらいとしたハートバランスシートの活用	⑫	A		
	安全やマナーについて生徒自身が考え、実践することを目指す通学指導を実施する。	学校生活のきまり、マニュアル等の配付、見直し インターネット（SNS）安全指導の実施	⑫	B		
		公共の場所（電車・駅等）での安全・マナーの向上を目指した登下校指導の実施 災害に対応した臨時下校指導の実施 交通安全指導の実施	⑪⑫	B		
渉外部門 PTA部	保護者との連携を密にし、計画的な委員会の開催と決定事項に沿ったスムーズな調整・運用を図る。	本部役員、学年委員、常設委員同士との連絡を定期的にとり、各委員会の開催の調整と協議内容の確認をし、共通理解を図る。	④⑩	B	B	コロナ感染防止の為に、計画通りには進められなかったが、各学年で会議を開き、共通理解を図ることができた。
		会議での意見、情報交換を生かした議事決定と、様々な事務手続きの簡潔化を図ることでスムーズな運営を目指す。	④⑦	B		
	P T A事業内容の工夫と保護者参加率の向上に努める。	ニーズに合ったP T A事業内容の工夫（安全を考慮した）と参加率向上 P T A行事のホームページ掲載や広報誌等による積極的な情報発信	④⑪ ⑤	B B		
	茨特P連や茨知P連、全知P連や関知P連等研修会への参加と報告及び情報交換を図る。	P T A諸団体行事や研修会等への計画的な参加と報告及び情報交換 主催者からの連絡事項のスムーズな伝達・調整	⑤⑩	B		
諸団体部	外部団体主催の行事への参加をととした本校の教育活動の理解啓発を図る。	ナイスハート、高等学校文化連盟、特体連スポーツ大会等では主催者の意向を踏まえた参加の方法の検討。	⑤⑨	A		
	舎務部門	学校、家庭との連携、情報共有を図りながら、実態や課題に即した指導を行い、生徒の心に寄り添った支援に努める。	個別の指導計画（自己管理能力評価票）を作成し、学校・家庭と連携した指導・支援をする。また、生徒の心の動きや変化等を把握するため、トーキングタイムやおしゃべりタイムを適宜実施する。	①③⑫	A	A
生活スキル検定やマイタイムをととし、生活技術力の獲得や定着など主体的自己管理能力の育成を図る。		寄宿舎生全員に対し、生活スキル検定を計画的に実施するとともに、マイタイムやマイスタイルを活用することで主体的に生活する習慣を身に付ける。	①③⑫	A		
自治会活動をととして、地域の方々と交流活動、生徒の共同・協働活動の充実を図る。		生徒のニーズに即した行事の立案や、活動内容についての見直しを図る。	①③④	A		
		交流・体験活動や日々の生活場面では、生徒同士が協力できるような場面を設けることで、協力する心や思いやりの心を育てる。	③⑦⑨	B		
事務部門	施設に起因する学校事故を防止する。	施設の常に安全な状態にあるかを意識できる点検の作成・実施し、不具合等危険箇所を早期発見し改善する。	⑪	A	A	危険箇所の早期発見及び予防修繕を速やかに行うことができた。整備計画について防災安全係等関係部署と連携し、生徒への影響度・危険度等を踏まえた計画を進めたい。
		学校景観を維持する。	芝・植栽等校地の管理計画を立て、気候条件変化に応じた対処を加えて実施し、整った景観を維持する。	⑪		
	設備の故障等による学校生活への支障を予防と建物・設備の老朽化に対する保全を図る。	建物の経年劣化の状態と進行の予測を調査し、躯体への影響を抑えるため、施設の中期的な整備計画を立てる。	⑪	B		
		設備の耐用・経過年数等から劣化箇所と故障の可能性を調査し、故障した場合の学校生活への支障を防ぐため、予防修繕に取り組む。	⑪	A		
1年	実態に即した学習をととして、基礎的学力の定着を図り、達成感や自己肯定感を育てる。	自立活動の視点を各教科に取り入れ、グループワーク、板書や発問の仕方、ワークシートの工夫等、授業内容の充実を図り、自ら考え選択したり、意見を伝えたりする活動を数多く設定した授業を実践する。	①②③④⑤⑥	A	B	授業研で1回は指導案作成、反省会などを実施し、職員の研修が深まった。継続できると良い。衛生面は慣れてくると緩慢さが見られたので、生徒の意識がまだ未熟な面がある。
		体験活動をととして、社会的・職業的自立に向けた態度や規範意識を養う。	校内実習やデュアル型現場実習、短期集中型現場実習などの働く体験の中から、社会的・職業的自立に必要な態度や規範意識の大切さを学ぶ。	④⑤⑥		
	家庭や寄宿舎との連携を深め、生徒の実態・課題の共通理解をもち、同じ視点で支援をする。	個別面談、学年便り、日誌の供覧や内容の充実を図り、家庭との連携を密にする。寄宿舎のフォーカスシートを活用し、早期に課題の共有化を図ることで、具体的な支援方法を確認し合って早期解決を行う。	⑦⑧⑨⑩	A		
	体温測定や体調チェックをととして、通常健康状態を知るとともに、健康的に過ごすための衛生管理を身に付ける。	毎日の体温・体調チェックを実施し、自己の健康な状態を把握できるようにする。また、身だしなみや歯磨き、手洗いなどを習慣化し、自己管理の基礎を学ぶ。	②⑫⑬	B		
2年	自己理解を育て、主体的に課題解決に取り組み、社会人として必要な基礎・基本となる学習内容の定着を図る。	習熟度別グループの学習をととして、生徒の実態や課題に応じた学習内容を展開し、自己肯定感や自己有用感を育て、挑戦しよう・貢献しようとする心を育む。	①②③④⑤⑥⑨	A	B	習熟度別の学習を進め、課題テストの全員合格を短期間で達成することができた。また、月1回のトーキングタイムを通して生徒の状態を的確に把握することができた。今後も継続したい。
		社会生活・職業生活に必要な知識・技能・態度を身に付ける。	現場実習やジョブスタディの学習をととして、自立活動の視点から自己理解を促進し、自らの課題を主体的に克服できるようにする。現場実習をととして、職業適性や課題を確認し、個々に応じた進路指導に努める。	③④⑥⑦		
	集団生活における好ましい対人関係を養う。	トーキングタイムを実施し、生徒の心身の状態を的確に把握して指導に生かす。	①⑥⑪⑫	A		
	基本的な生活習慣を育成するために、体調管理や感染症の予防に努め、体と心の成長を図る。	あいさつの徹底やバランスの良い食事、適度な運動を心がけ、健康的な生活習慣を身に付ける。また、こまめに手洗いする習慣を身に付け衛生管理に努める。	②⑫	B		
3年	自己肯定感を大切に、新しいことに積極的に挑戦する。	「やってみる」「できた」体験を多く取り入れ、自己肯定感を様々な場面で味わわせることで新たな挑戦への気持ちを育み、積極的に学習活動に取り組める環境を整える。	①②④⑦	A	A	素直な態度で主体的に学習活動に取り組むことができた。新型コロナウイルス感染症対策を卒業後も主体的に行うことができるようになる必要がある。
		卒業後の生活をイメージし、働き続けるために必要な知識及び技能・態度を身に付ける。	現場実習やジョブスタディをととして、自己理解を深めながら職業人としての意識を育て、働き続けるための知識や技能、態度を学ぶ機会を設ける。	①②⑥⑧		
	トーキングタイムを計画的に実施し、生徒個々の困り感を明確にし、共通理解を図り、的確な支援を行う。	トーキングタイムの記録の供覧をととして、生徒の抱えた問題に目を向け、支援内容や支援方法を学年全職員で共通理解し、共通した指導感がかかわる。	⑫	B		
	社会自立に向けて生活スキルの向上を図るとともに、社会人として健康的な生活を送ることができる習慣を身に付ける。	家庭・寄宿舎と連携しながら、アパートタイム、グループホームタイムを有効活用し、自己管理能力を高め、社会自立に向けたスキルを身に付ける。食べることの大切さを理解し、自ら健康管理・体力を維持するためにバランスの良い食事をとる習慣を身に付ける。	⑨⑪⑫	B		